

## ブタナと違っていたら～ カワリミタンポポドキ

函館市 酒井 信

2018年9月初め、これまでほとんど行くことのなかった江差町逆川森林公園を訪れた。花の少なくなるこの時期、草地や路傍で最も目につくブタナ、この時もブタナと思い、注目することなく通り過ぎた。ただ、ほとんどの株が小さく、花茎が細く枝分かれしないため、すんなりしていることには気づいていた。帰路、やはりこの種が呼び止めたのか、ブタナに小型の別の種があるのだろうかと思いながら、取りあえずカメラに収めた。同時に参考のために群落の脇にあった大きな株、ふつうのブタナも撮影した。帰宅後すぐに調べると、ブタナに似た種がいろいろあること、また、小型の株は外来種のカワリミタンポポドキであることが分かった。本件を当会の五十嵐博氏に報告、後日間違いないことを確認いただいた。また、北海道初確認とのことであつた。本稿では文献の記述を参考に、生育の現場で本種とブタナを区別する観点から、観察の結果、形態の違いなどを述べる。



図1 カワリミタンポポドキ (全草)

### カワリミタンポポドキとブタナ

逆川森林公園は逆川ダム周辺の林間公園で、ダムと言っても大きな沼のような所で水辺に近づくことができる。カワリミタンポポドキ *Leontodon taraxacoides* (Vill.) Merat (以下本種) はこのダムの水辺、日当たりのいい荒地 (堆積土砂?) に、またその付近の路傍に群落を形成していた。園内にはブタナ *Hypochaeris radicata* L. も生育しているが本種の群落内にはほとんど見られなかった。

本種やブタナ、その他の似た外来種については、清水 (2003) では細部にわたり詳細に、また、清水ほか (2001)、植村ほか (2010) などにも記載されている。

**葉と花茎** カワリミタンポポドキは全体としてブタナと似ているうえに、群生、開花する様子もよく似ている。図1は本種の全草で、草丈は20cm程度、花茎の径も1mm程度とブタナよりかなり細く、小さい。本種の葉は全て根生で、倒披針形、羽



図2 カワリミタンポポドキの葉